

赤城山地図（国土地理院発行）



赤城山を活用した教科体験学習（中学生版）
～国語・社会・理科・美術・保健体育
総合的な学習の時間～



学びの場所を、
変えてみよう。



体験を、
生きる力へ。

— 赤城山が、教室になる。 —



◆試行事業協力校

群馬県渋川市立赤城南中学校
群馬県渋川市立子持中学校
茨城県ひたちなか市立勝田第一中学校

※ワークシートの活用について

問合せ先：国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27
TEL：027-289-7224
FAX：027-289-7226
H P：<https://akagi.niye.go.jp>

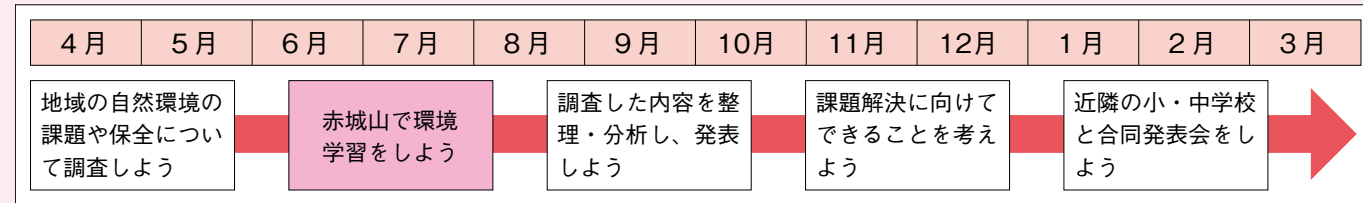


独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立赤城青少年交流の家

令和4年3月発行

◆総合的な学習の時間 環境教育年間指導計画例



事後の活動例

教科等：総合（2～3時間扱い）

1. 目標
 ○地域の自然や環境、SDGsなどについての探究的な学習を通して、地域が抱える現状や課題を明らかにし、環境保全についての取り組みなどの情報を収集したり、調べた内容から考察したりして、地域と自分との関わりを理解するとともに積極的に行動しようとする態度を育てる。

2. 学習活動
 (1)SDGsについて調べる
 (2)調べた内容を文・絵・図などまとめ、課題意識をもつ。
 (3)調べた内容を友達と発表しながら、地域の現状や課題を知る。



当日の活動例

教科等：総合（2～3時間扱い）

<日程>
 10:00 登山口集合
 11:00 地蔵岳山頂到着
 12:00 小沼湖畔で昼食
 13:00 覚満淵散策
 15:00 ビジターセンターにて解散

1. 目標
 ○赤城山の自然環境や環境問題とその保全に取り組む人々が存在することを知るとともに赤城山の環境の現状と自分たちとの関わりを理解することができる。

2. 学習活動
 (1)赤城山登山を行う。
 ・登山の楽しさと登山上の注意を確認する。
 ・登山をしながら動植物の話聞く。
 ・地蔵岳で大沼のカルデラの説明やお地蔵様について話を聞く
 (2)覚満淵散策を行う。
 ・覚満淵の植生と自然保護、森林の役割について話を聞く。

事前の活動例





教科等：総合 時間数：3～4時間扱い

1. 目標
 ○学習したことをもとに、赤城山の自然や環境保全などの現状や課題、よさについてレポートや新聞などにまとめることができる。

2. 学習活動
 (1)環境保全の取り組みや、活動を通して考えたことや気づいたことを新聞などにまとめる。
 (2)新聞を読み合い、友達と交流することで自分の考えを深める。
 (3)近隣の中学校や小学校で合同発表会を行う。
 (中学生サミット)

◆教科(保健体育)実践例

単元名	【傷害の防止】「応急手当の意義と方法」
目標	傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できることなどについて理解し、応急手当ができるようにする。
活動の流れ	事前 ・登山でのけがはどんなものが多いかブレインストーミングする。 ・応急手当の意義を整理する。
	当日 (1)活動の確認（友達や自分がけがをしたときにどうすればよいか） (2)手当の仕方の確認（赤城職員） (3)グループ内で役割分担 ①けが人役がカードをひく。 ②どんなけがをしたかグループの人に言い、処置をしてもらう。 ③処置ができたなら、先生にチェックしてもらう。 ④けが人役を替え、次の活動を行う。
	事後 ・学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。 ・日常時に行うべき、応急手当や救助法についても学習する。 ・学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。
場所	地蔵岳
準備	三角巾、包帯、ガーゼ、ビニール袋、バンドナ、けがカード



赤城青少年交流の家以外でも、ワークシートを活用された場合とアレンジされた場合は当所までご連絡ください。



けがカード



歩いていたら、左足首をひかって捻挫してしまった！
 痛くて立ち上がれない！
 左足首を固定してほしい！

◆教科(理科)実践例

単元名	【気象のしくみと天気の変化】「赤城山の天気を調べよう」
目標	生活に関わりの深い、天気の変化と気圧、気温、湿度、雨などの気象との関係や日本の四季、気象災害について理解することができるようにする。
活動の流れ	事前 ・山の観天望気について調べる。 ・中学校周辺の気温、気圧、湿度を調べる。
	当日 1.赤城山の天気を地蔵岳の山頂で学習する。雲の種類、量を調べる。 2.気温、気圧や湿度を調べる。中学校や登山口、山頂との違いを調べる。 (予想) 1,674-379=1,295 13×0.6=7.8℃低い (結果) 21℃-13℃=約8℃
	事後 ・学んだ内容をレポートなどにまとめる。 ・気温、気圧と土地の高さについての関係をまとめる。
場所	地蔵岳
準備	温湿度計、気圧計



◆教科(国語)実践例

単元名	【短歌のリズムで表現しよう】	
目標	赤城山での自然体験学習を通じて、自然や体験を題材に表現を練りあげて短歌を作ることができるようにする。	
活動の流れ	事前	・ 目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・ 教科書の短歌を鑑賞し、情景や心情を想像する。
	当日	1. 赤城山を歩く。 2. 目にしたものの風景、目にした瞬間の印象などを切り取り、具体的に書き留める。
	事後	・ 作品の鑑賞会や展示を行い、お互いの作品を鑑賞する。 ・ 学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。
	場所	地藏岳 覚満淵
準備	筆記用具 しおり(ワークシート)	



◆教科(美術)実践例 関連教科 美術(2/8)

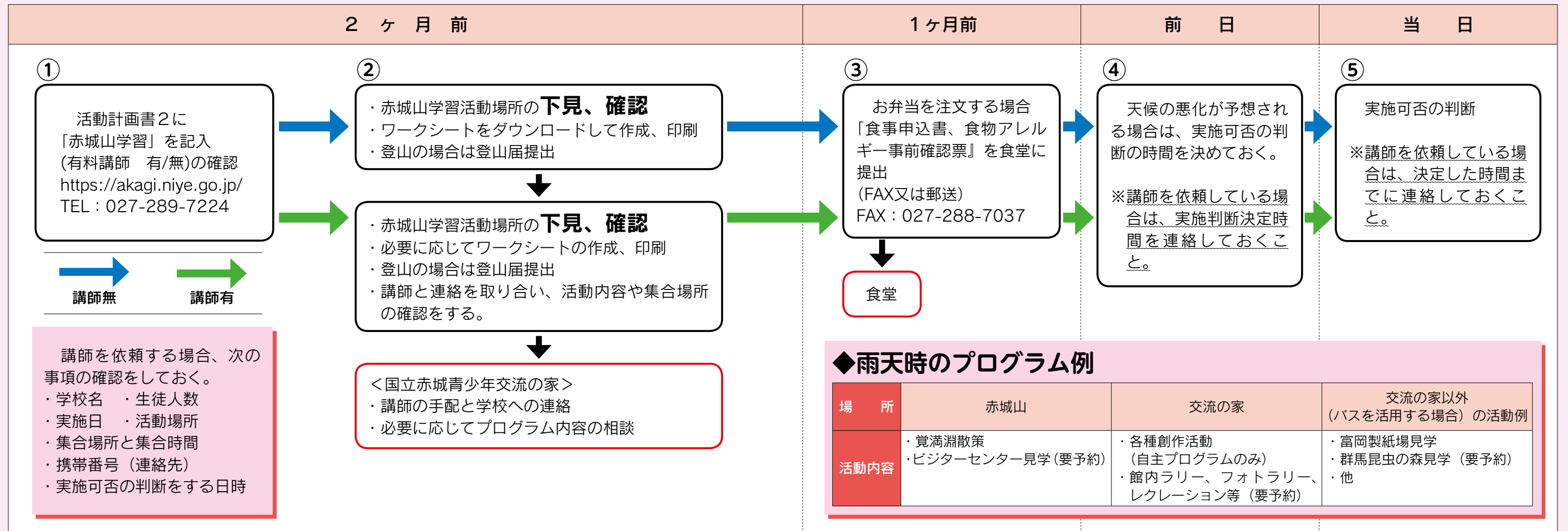
単元名	【風景に思いを重ねて】「赤城山をスケッチしよう」	
目標	思い出の風景に、自分の感じたことをどう重ねてあらわすかを考え、表現方法を工夫して描くことができるようにする。	
活動の流れ	事前	・ 実施場所(登り方、ポイント)について調べる。 ・ 風景に、自分の感じたことをどう重ねて表すかを考えて主題をもつ。
	当日	1. 主題をもとに、形や色、構図などの構想を練る。 2. 登りながら、自分のビューポイントで写真を撮り、主題をもとに、形や色、構図などの構想を練りながら、スケッチをする。
	事後	・ 形や色、構図などを工夫して制作する。 ・ 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。
	場所	地藏岳、長七郎山、覚満淵
準備	・ グループに1つタブレットまたはカメラ ・ クロッキー	



◆申し込みから当日までの流れ

「赤城山を活用した教科体験学習」とは、各教科の学習内容を赤城山で学習する活動です。学習した時間を各教科でカウントすることができます。各教科の学習内容については各学校で計画・準備等を行います。講師は赤城山登山や覚満淵散策をしながら、植生や環境についてレクチャーをします。

下見及び事前の打合せをおすすめしております。ご希望される場合は、あらかじめ電話連絡をしてください。(予約制)
※ご予約について詳しくは「利用の手引き」またはHPをご覧ください。



◆登山時の服装・持ち物・注意事項

ベースレイヤー
直接肌に接する下層なので、汗を吸収し外に水蒸気として発散させる素材を選ぶ。綿は汗を逃がさないで登山やアウトドア用には不適。

アウター
一番外側に着る服。防水、防寒、防風機能がしっかりしたものを。内部の蒸れを外側に拡散する素材を選ぶことも大事。

ミドルレイヤー
中間着。季節や山城、気温や天候に合わせて、保温性能で使い分け。フリースや薄手のウールなど。寒い時期などは薄手のものを重ね着することも有効。

パンツ
動きやすい伸縮性のある素材で、乾きやすいものを。ダブルしたものは歩行中に木などに引っかかるので避ける。夏でも長ズボン。春秋は保温性のあるものを。

靴下
靴擦れや疲労を防止、軽減するために足にフィットし、クッション性、速乾性のあるものを選ぶ。

帽子
春から秋は直射日光を避けるために。寒い時期は防寒用にも。雨天時には防水性のある帽子を雨具のフードと合わせて使うと視界が確保できて便利。

手袋
木の枝や岩角などでのケガ防止に。寒い季節は防寒用としても。夏は指先の出るタイプも快適。綿の軍手は濡れると冷たく登山向きではない。

登山靴
軽いハイキング程度でも登山靴で。実際に履いて足に合った靴を選ぶこと。そして防水性も重要。

リュック (ザック)
日帰りでも20リットルくらいから、1泊の山小屋泊なら30リットルくらいの容量のもの。軽くて丈夫なものを選ぶ。

レインウェア
晴れていても必ずザックに入れておくように。防水性と合わせて内側からの蒸れを外に逃がす素材を使った登山用の雨具を選ぶ。

必ず準備するもの

登山に行く際、必ず持って行きたい持ち物を紹介します。最初からものを揃えるのは難しいですが、登山は自然相手のスポーツ。危険から身を守るためにも、最低限これだけは準備しておきましょう。

<p>ヘッドライト 日帰りでも、なんらかのアクシデントなどで日没後に行動することを想定し、必ず持って行く。出発前の電池のチェックも忘れずに。</p>	<p>登山地図・コンパス・GPSアプリ コースを事前に確認し、登山中も自分がどこにいるかを確認するために、地図(国土地理院発行の地形図など)とコンパスは必須。その使い方もしっかりと学んでおく。スマホのGPSアプリも現在地確認などに有効だが、バッテリー切れに注意。</p>	<p>携帯電話・予備バッテリー 万一方の場合の通信手段、GPS機能、地図、計画書提出、天気予報など、スマートフォンにはさまざまな便利で高度な機能がある。ただしバッテリーの消耗が早いので予備のバッテリーは必須。</p>	<p>水分 登山時はかなりの水分を必要とする。また傷口の消毒にも使えるので、水分は多めに持って行く。傷口の消毒のためにはペットボトルの水と、錐で複数の穴をあけたペットボトルのふたを持っていくと良い。水分補給と合わせてミネラルや栄養も補給できるスポーツドリンクやエナジージェルも。</p>	<p>行動食 登山中は、昼食のほかに、水分とあわせてこまめに食べ物から栄養を補給する必要がある。エナジージェルや高カロリー食など食べやすいものを休憩時などに口に入れるようにする。</p>
<p>非常食 万一の時に食べるものなので、食べやすく、消化の良い、高栄養、高カロリー食を必ず準備しておく。エナジージェル、チョコレート、ドライフルーツなどのほか、非常時の水分も確保しておく。</p>	<p>健康保険証 ケガや急病時など健康保険証があると安心。紛失の心配があればコピーでも。</p>	<p>ゴミ袋 ゴミはゴミ袋に入れて、かならず自分で持ち帰るように。また登山が長時間にわたり、途中でトイレがない場合は携帯トイレも持参する。</p>	<p>救急セット(追加) 救急医薬品、三角巾、包帯、保温用のシート(ツェルト)、ナイフ、テープなど、救急用に最低限必要なものは個人でもザックに入れておく。</p>	

登山など屋外活動をする上での注意事項

- 水分補給をこまめに行う。
- カロリー補給をこまめに行う。
- 防風、防寒対策をする。
- 計画はゆとりのある日程にする。
- 石が落ちてしまったら、大きな声で下の人に「落石!」、または「らく!」と叫ぶ。
- 危険を伴う活動ということを自覚する。
- 転倒などが大きなけがにつながる。

登山中に必要な水分量(ml)

= 自重(体重+ザック) × 行動時間 × 5

(例) 1500(ml) = 自重(55kg+5kg) × 5時間 × 5
ただし、気温が高い時などはさらに必要になります。

◆活動の概要

		内容
対象		中学生(1~3年生)
時間		1時間~6時間程度
時期		4月~11月 (気温や天候による)
場所		赤城山、覚満淵、大沼、小沼
人数	講師有	講師1人につき、30~40人程度
	講師無	原則学級単位で実施
講師費用	講師有	講師1人につき、15,000円~19,000円程度(コースによる)
	講師無	無料

◆申し込みの詳細、必要資料など

HOME 施設紹介 活動プログラム 教育事業 活動報告 交通アクセス お問い合わせ

2021年(令和3年)4月24日(土)に50周年記念式典を開催することができました。今後とも、赤城山青少年交流の家を盛り上げてまいります。400名までご予約可能。お申し込みください。

申し込み方法 利用中心フォーム

利用の手続き

申込書ダウンロード

活動プログラムマニュアルをダウンロードしてください。

食事メニュー

施設案内リーフレット、各種利用施設向けチラシ

新型コロナウイルス感染症 関連情報

赤城山学習に関する資料のQRコードはこちら!

ホームページから各種資料をダウンロードしてご利用ください。

https://akagi.niye.go.jp/program/manual/

◆検討委員会の概要

(1)委員の構成(検討委員5名)(五十音順)

- 群馬大学医学部附属病院 病院長
- 千葉市教育委員会 学校教育部 保健体育科指導主事
- 日本山岳会 群馬支部 支部長
- 渋川市教育委員会 学校教育課指導係指導主事
- 国立赤城青少年交流の家 所長

- 齋藤 繁
- 佐々木 剛
- 根井 康雄
- 原田 諭
- 松村 純子

(2)委員会の内容と議事内容

- 第1回検討委員会 7月19日(月)
 - ・検討委員会の設置
 - ・プログラム開発、検討
- 第2回検討委員会 12月9日(木)
 - ・試行報告
 - ・リーフレット検討

◆本リーフレットの活用にあたって

国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子

令和2年度の小学生版に引き続き、本年度も検討委員の皆様のご協力を得て、「赤城山を活用した教科体験学習(中学生版)」のプログラム開発を行うことができました。

令和の時代における学校教育は、1人1台端末環境が「スタンダード」となっています。実践例の中には、タブレットを利用する教科もあり、資料は、QRコードから取得できるようにしました。中学生が赤城山で体験できる教科を増やしましたので、各学校の実態に合わせて活用いただければ幸いです。

本リーフレット作成のために、試行事業等にご協力いただきました中学校の皆様へ厚くお礼申し上げます。

◆各検討委員から

群馬大学医学部附属病院
病院長 齋藤 繁 委員

千葉市教育委員会 学校教育部
保健体育科 指導主事 佐々木 剛 委員

赤城山は広大な裾野と大沼を中心とした複数のピークで構成される自然の宝庫です。多くの動植物の生命がこの素晴らしい環境で誕生・成長しています。育ち盛りの皆さんも赤城の懐でひと時を過ごし、大自然の一部として自分自身の成長を確認しましょう。学校の校舎や校庭では気づかなかった自分の能力を発見できるはずですよ。

このプログラムは、先生方が手軽に、手順通りに進められるようにパッケージ化されています。事前に教科で学んだことをワークシートに沿って、赤城山で経験・学習することで、生徒の学びの深まりが期待できます。大自然の中で、味わえる楽しさや感動だけでなく、もう一歩踏み込んだ体験活動とするため、ぜひ、ご利用ください。

渋川市教育委員会 学校教育課指導係
指導主事 原田 諭 委員

日本山岳会 群馬支部
支部長 根井 康雄 委員

各学校の希望に寄り添い、子供たちの笑顔と歓声が満ちあふれる体験ができるのが、「赤城山を活用した教科体験学習」です。赤城山での発見・驚きをもとにした、主体的・対話的で深い学びができる体験学習を実施してみませんか。参加者全員が、赤城山の豊かな自然を満喫でき、心と体にエネルギーを蓄えられること、間違いなしです。

大自然の中での活動、特に登山は、子どもたちに、たくましさとしなやかさ、そしてやさしい心を身につけ、自ら学ぶ心を引き出してくれます。豊かな自然や歴史、さまざまな文学作品など、赤城山で学べることはたくさんあります。火山の学習を通して自然の力を、信仰や人々の歴史から、幅広い地域の特色を学ぶことができます。